

弘前大学理工学部後援会報

第 8 号

発行日 平成24年2月28日
発行者 〒036-8561 弘前市文京町3
弘前大学理工学部後援会(理工学部内)
印刷所 (株) 笹 軽印刷
連絡先 福田 眞 (理事・教員)
TEL : 0172-39-3678

就任ご挨拶

大学院理工学研究科長・理工学部長 (平成24年度より)

吉 澤 篤



弘前大学理工学部後援会の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。皆様には

平素より理工学部・大学院理工学研究科に多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。私は、この度、稲村教授の後任として理工学研究科長・理工学部長を拝命することとなりました。この場をお借りして後援会の皆様にご挨拶申し上げます。

昨年の東日本大震災からはや一年になります。後援会の皆様の中にも被災された方がいらっしゃるかと存じます。被害を受けられました皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

弘前大学では昨年三月十一日の東日本大震災に続いて起こった東京電力福島第一原子力発電所放射能事故に際し、医療

チームや被曝状況調査チーム等、延べ五百六十七名を長期にわたり派遣しました。実は私自身このような活動を正確に認識していませんでした。昨年十二月に弘前市で開催された平成二十三年度弘前大学研究成果公開シンポジウムに出席し、その活躍ぶりを知った次第です。私は講演を聞きながら、弘前大学の教職員の一人であることに誇りを感じました。また、理工学研究科におきましても地球環境学科と地震火山観測所が中心となり、全学的な支援を受けて「東日本大震災を踏まえた長期的地震防災力向上プロジェクト」に取り組んでいます。後援会の皆様の中にもお子様が卒業研究や大学院での研究を通してこのプロジェクトに携わっている方も居られると思います。

さて、二〇〇八年秋のいわゆるリーマンショックで企業活動が停滞し、それまでは好調だった就職活動が一挙に厳しい状況に陥りました。二〇一〇年には回復の兆しが見えたのですが、二〇一一年の東日本大震災での被害、タイ洪水での現地工場の休止、さらには急激な円高で二〇一二年初頭には日本を代表する電気メーカーが軒並み大幅な赤字決算を発表しました。しばらくは就職活動も厳しいものにならざるを得ないと予想されます。「大学まで出したのに、就職できないなんて」という親御さんの嘆きも聞こえてきそうです。私にも子供が三人いて、とても身近な問題です。しかし、このような低成長の時にこそ、考える力を持つてい

るかどうかが問われます。さらに借り物でなく、自らの言葉でその考えを伝えることが大切だと考えます。理工学部の学生数は一学年三百名(定員)、一方、教員は九十二名(二〇一二年二月)です。私たちは教員一人あたりの学生数が少ない利点を生かし、教育に取り組んでいます。一年生はクラス十五、二十名ぐらいの単位の基礎ゼミナールにおいて導入教育がなされます。さらに理工学部専門科目では講義で学んだ知識が身に付くよう練習問題を解くこと(演習)に力を入れていきます。教員は全員オフィスアワーを設定し、その時間は授業の質問のみならず様々な相談に応じられる様に待機しています。私が大学生であった三十年前とは様変わりです。試験や実験レポートは一度も手元に戻ってきたことがありませんでした。答案を扇風機で飛ばし、その順に点をつけているのではと噂したものです。今は赤く添削されたレポートが学生の手元に戻ります。しかし、このような取り組みも受け手である学生にその気がなければ功を奏しません。せっかくの機会を有効に活用してもらいたいと願っております。四年生になると卒業研究を実施するため研究室に配属されます。私は研究室での学びがたいへん重要であると考えています。卒業研究では三年生までの講義で学んだ知識が知恵となるよう研究指導を受けます。学生は配属先の教員から課題を与えられ、教員の指導のもとでその解決法を学びます。さらに、

大学院では解決方法を自ら考えます。先に述べました様に私たちを取り巻く環境は厳しいものですが、平成二十二年度卒業生の就職率は理工学部で九五・〇%、理工学研究科は九六・八%と良好な状況です。また、大学院での研究成果が高い評価を受け、国際学会で著名な賞を単独で受賞する学生も出てきました。弘前大学理工学部の少人数教育が奏功しつつあると思っております。

後援会からのご支援は、学部・大学院の教育・研究を充実させるための貴重な財源となっております。特に学生の学会発表のための旅費補助、各学科で行われている会社見学等の学外研修への補助などに使用させていただき、国からの交付金が年々削減され大学の予算が厳しくなる中で、たいへん助かっております。理工学部をより充実させていくための忌憚のないご意見やご提案をお寄せいただきますようお願いいたしますとともに、今後とも後援会各位の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後にになりましたが、後援会の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

弘前大学理工学部後援会



会長 三浦 賢二

昨年三月のあの東日本大震災以来、なかなかすつきりでできない日々の連続です。皆様方も同感かと思えます。学位記授与式は中止で学部毎の伝達式に……。入学式は大幅に延期され、学生諸君にも色々影響しました。新年を迎え、少し気持ちを改められるかと期待したのですが、今度は震災の直接的影響を受けなかった地域？が豪雪です。私が大学生になった頃は自家用車は冬は殆ど走っておらずまだ馬そりが活躍してたかと思えます。春がくると大通りでは一斉に雪割りをしていた光景が印象的です。今は雪国とはい

え車社会。そして特に、城下町弘前では積雪が1mもあると麻痺状態といわざるをえません。

ある日の地元紙に「福島県の教訓『番外編』」「海洋温度差発電」「マグネシウムを用いた燃料電池」という見出し・記事がありました。掲載ページは別々でしたがある思いが私の頭の中で結びついていました。同じ程度の津波を受けていたのに（インターネット情報ですが）日本式に改良した型の福島第二原発はセーフ。なお、記事では「電力会社は発電所のメンテナンスを外部の業者に大きく依存しているにもかかわらず多層構造……」と北村俊郎さんという専門家のコメントも紹介していましたが、私が大学で原子力について学んだ時の直感は、核エネルギーを扱うのはその道の専門家でなければ大変になるという思いでした。一方で、発電・蓄電を含めた今後の日本型技術革新を大いに期待しなければなりません。停電の夜は太陽光で蓄電したガーデニングライトに救われました。

ところで先日、創立時に関わった高校の課題研究発表会を覗いてきました。弘前大学の先生方のご指導も受けたりしながら、科学技術のみならず多岐の分野についての未来に前向きに取り組む高校生の姿に接し、エールを送ってきました。高大連携が進むのを歓迎しながら、当弘前大学理工学部後援会の使命についての再確認です。今年度の嬉しい悲鳴は、院生が中心でしたが研究発表が沢山あり、補助必要経費が予算を大幅に超えました。理事の先生方と頭を抱えましたが、踏ん張りどころ。学生の教育、指導に必要な助成が後援会第一の事業です。学部生の学外研修も社会との連携を実感する機会、これらへの助成に保護者の皆様も異論はないと確信します。

最後に恐縮ながら、三月で任務を交代される稲村研究科長には色々ありがとうございました。吉澤次期研究科長ともどもこれからもよろしくお願い申し上げます。

札幌会場保護者懇談会のご報告

大学院理工学研究科長 稲村 隆夫

理工学部後援会会員の皆様には、平素より理工学部・大学院理工学研究科に多大なご支援いただき、大変ありがとうございます。本年度は、東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。弘前は幸いにも停電や震災後の物不足等のみで、大きな被害に遭わずに済みました。しかし、その後の原子力発電所の事故や風評被害も含めて、東北地方全体が大きな打撃を受けました。大学としても東北地方、ひいては日本の復興に全力を尽くしていきたいと存じます。ご支援の程宜しく申し上げます。

さて、理工学部後援会のご支援により、本年度も札幌市で保護者懇談会を開催することができました。本年度は、サッポロファクトリーをお借りして、十月八日（土）に実施いたしました。開催日は三連休の初日であり、また北海道は丁度観光シーズンでもあったため、保護者の方に参加していただけた大変心配しておりましたが、昨年度と同程度の八十七名の参加者を得ることができました。北海道



全体相談会の様子

地区で保護者懇談会を始めたのは、近年北海道からの入学生が年々増え、保護者の方から北海道地区で保護者懇談会を開いて欲しいとの要望が多く寄せられたためで、昨年度に引き続き、本年度は二回目の開催となります。

写真は、全体相談会のときの会場の様子を示しています。全体相談会では、まず弘前大学理工学部及び大学院理工学研究科の卒業生、修了生の就職状況について説明させていただきました。リーマンショック以来の世界的不況により就職に関しては大変厳しい状況が続いておりますが、幸いにも弘前大学の場合全国的に見ても就職率が高く、昨年度の理工学部卒業生の就職率は九五・〇%、大学院博士前期課程修了生は九六・八%でした。本年度は、世界的不況に加え大震災の影響も懸念されましたが、現状では昨年度と同程度の就職率が得られるものと期待しています。

次に授業の成績評価について説明させていただきました。成績表の見方や成績表から読み取れるお子さんの授業態度などについて説明致しました。ところで、近年休学や退学する学生が年々増加する傾向にあり、最近では休学する学生が年間三十数名、学業の途中で退学する学生は年間二十名近くに及んでいます。もしお子さんが弘前で一人暮らしをしている場合でもできるだけ多くの機会にお子さんに連絡を取っていただき、それとなく大学の様子をお聞きいただいて、もし悩みをお持ちのようでしたら、何なりと大学の方にご連絡いただければ幸いです。

全体相談会に引き続き、個別相談会が開催されました。お子さんを親元から離して生活させていることからご心配な保護者の方が多いためか、約七割の方が個別相談会にも参加されました。個別相談会では、個別にお子さんの成績や授業に対する取り組みなどに関して細かな説明をさせていただきました。

このように、北海道地区での保護者懇談会は盛会の内に終了することができましたが、開催時期や開催場所についてまだ課題が残っています。今後でもできるだけ皆さんが参加しやすいように改善してまいりますので、特に北海道にお住まいの保護者の皆様には次年度もご参加いただければ幸いです。

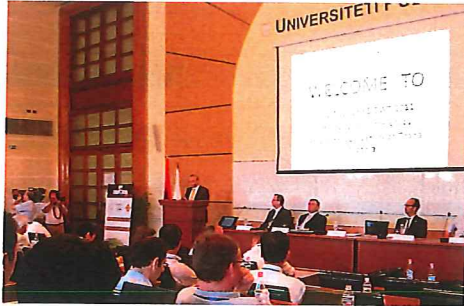
国際会議に参加して

長瀬 研 西村 唯一郎

第十四回NBIS国際会議2011 (The 14th International Conference on Network-Based Information Systems)に参加、発表してきました。この会議は、二〇一一年九月六日から同年九月九日の三日間、アルバニアのティラナ技術大学にて行われ、私は、初日の九月六日に同大学で発表を行いました。

NBIS国際会議は、様々なネットワーク通信システムについて、技術者や研究者が集まり、構想や研究成果を発表し合う会議です。ヨーロッパ諸国の他、アメリカやオーストラリア、そして日本などから参加していました。この会議では全部で百六十八論文が提出されましたが、受理されたのはそのうち約三〇%の五十一論文でした。

私が発表を行ったセッションでは、主にセキュリティのシステムに関する研究を主題としていました。



開会式の様子、
この会議は地元のテレビ局にて放送された

初めのうちは、日本人同士でも英語でやりとりを行う場面を目の当たりにしたことで、コミュニケーションに対する不安も生まれましたが、ティラナ技術大学の学生をはじめとする様々な大学の学生との雑談や、研究会の運営者との挨拶、その他大勢の方との会話などを繰り返すうちに、そういった不安は次第に解

消されていきました。

私の発表タイトルは“Secure Clustering for Building Certificate Management Nodes in Ad-Hoc Networks”であり、その内容は、アドホックネットワークと呼ばれる、信頼できる第三者機関が存在しない無線ネットワーク上において、各ノードが、投票によって信頼性の高いノードを評価すること、ネットワーク上の安全性の問題を解消することを目指した、新しい方式を提案したものです。発表に際しては、事前より作成してあった全文英語のスライド及び原稿を用い、解説や質疑応答を英語にて行いました。一人あたりの持ち時間は、発表と質疑応答を合わせて二十五分でした。私の発表では、質問や意見の交換が多かったということに加え、座長による新しいアイデアが提案されたこともあって、時間内で討論を終わらせるのは大変でした。この時得た新しいアイデアや英語での討論は、私の研究という点においても、私自身のコミュニケーション能力の向上という点においても、大変勉強になりました。

会議では、日本人同士がプライベートに話す場合を除いて、セッションや会議でのフォーマルな挨拶から、会議とは直接関係のない雑談まで、ほぼ全てのやりとりが英語でした。その中で、他国の学生との雑談で何よりも印象的だったのは、その時交わした会話の内容ではなく、相手の文化や学校の生活の違いについてこちらに質問をぶつけてくる、彼らの意欲的な態度であつたように思います。私が相手国の文化や研究内容について知ろうと思うのと同等かそれ以上に、彼らもまた、他国への強い興味を持っていました。自分と同じ分野を専門とする研究者達の発表や、他国の学生との会話が、私にとってかけがえのない貴重な体験となりました。この度、国際会議への参加に際し、旅費を援助して下さった弘前大学理工学部後援会に、深く感謝いたします。

弘前大学理工学部後援会
役員等一覧 (平成23年6月6日現在)

○会長

三浦賢二

○副会長

日野了一

○理事

・通常会員

谷川 浩二 (数理科学科)

齋藤 哲 (数理科学科)

石岡 誠 (物理科学科)

盛 哲 (物理科学科)

日野 了一 (地球環境学科)

新谷 泰造 (地球環境学科)

大高 正夫 (電子情報工学科)

佐藤 武英 (電子情報工学科)

佐々木 一 (知能機械工学科)

山内 敏春 (知能機械工学科)

・特別会員

岡本 浩 (弘前大学大学院理工学研究科教授)

福田 眞 (弘前大学大学院理工学研究科教授)

中里 博 (弘前大学大学院理工学研究科教授)

・賛助会員

三浦 賢二 (弘前大学文学部昭和40年3月卒業生)

○監査

奈良 昌孝 (電子情報工学科)

兜森 博道 (物質創成化学科)

○顧問

稲村 隆夫 (弘前大学大学院理工学研究科長・理工学部長)

(敬称略)

定例の理事会と総会がそれぞれ六月九日と十月二十一日に開催されました。理事会では、平成二十二年年度決算案、特別事業支援費、大学研究発表補助金、英語検定受験料補助費、平成二十三年年度予算案について審議が行われました。昨年度総会で要望のあった「積極的な運用」を受けて特別会計から一般会計への繰り入れを行いました。ま

理工学部後援会 第8回総会

会務報告(理事会、第八回総会)

た、今年度の特別措置として、学生室等の耐震固定器具購入補助を特別会計から支出することが提案されました。英語検定受験料補助費は、理工学部学生の英語能力の向上に少しでも役立てばと、本年度から新たに設けたものです。総会においては、同様に平成二十二年年度決算、特別事業支援費、平成二十三年度事業計画と予算について審議が行われ、承認されました。今後、バランスのとれた予算を組むことが提案されました。

次回総会は保護者懇談会開催に合わせ、本年十月後半に、また、来年度定例理事会は本年度と同様に来年度6月頃に開催予定です。理事会については必要な案件があれば臨時理事会を開催します。

◆一般会計

平成22年度 弘前大学理工学部後援会決算書

平成23年3月31日 (円)

項目	金額	備 考
繰越金	725,026	平成21年度より
収入の部		
会費	3,465,000	新入生(22年度) 115人 1,935,000円 新入生(23年度) 46人 910,000円 在学生 31人 580,000円
雑入	201	預金利息
合 計	4,190,227	

項目	金額	備 考
支出の部		
教育・研究支援費	3,097,325	大学院生研究発表旅費補助(1,409,200) ・前期申請 12人(587,200)、後期申請 14人(822,000) 学科事業補助(591,080) ・学科外研修旅行補助4件(208,280) ・高エネ加速器研究機構との協定に開く実習参加旅費補助(357,000) ・知能機械工学科カリキュラムガイド作成補助(25,800) 学部事業補助(1,097,045) ・理工学部保護者懇談会補助(札幌会場含む)(851,045) ・「楽しい科学」「サイエンス」への招待「体験補助学生謝金補助(246,000)
就職対策支援費	113,680	就職ガイダンス(OB・企業人講演)3件
卒業・終了祝賀会費	0	(東日本大震災のため祝賀会中止)
印刷費	273,000	会報第7号(2,000部)
通信・運搬費	81,240	加入案内送料(研究科新入生)(10,750) 加入案内送料(在学生未加入者)(60,960)、理事会開催案内送料等(9,530)
会議費	10,400	役員交通費等
事務費	180,000	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
備品・消耗品費	7,260	プリンタラベル等
振替払込料	23,040	会費払込手数料(212人)
予備費	58,960	後援会費超過納入分の返還
合 計	3,844,905	

収入決算額 4,190,227円 - 支出決算額 3,844,905円 = 345,322円を次年度へ繰り越す。

◆特別会計

項目	金額	備 考
繰越金	10,200,000	平成21年度より
雑入	0	貯金利息
合 計	10,200,000	
支出の部		
学部特別事業支援費	311,025	学習相談チューター謝金補助
予備費	0	
合 計	311,025	

収入決算額 10,200,000円 - 支出決算額 311,025円 = 9,888,975円を次年度へ繰り越す。

◆一般会計

平成23年度 弘前大学理工学部後援会予算書

平成23年4月1日 (円)

項目	金額	備 考
繰越金	345,322	平成22年度より
収入の部		
会費	3,415,000	新入生(23年度) 110人 1,875,000 新入生(24年度) 45人 900,000 在学生 30人 600,000 教職員 20人 40,000
雑入金	1,000,000	特別会計から繰り入れ
雑入	300	預金利息
合 計	4,760,622	

項目	金額	備 考
支出の部		
教育・研究支援費	3,430,000	大学院生研究発表旅費補助(1,000,000) 学科事業補助(1,030,000) ・学科外研修旅行補助5件(268,000) ・高エネ加速器研究機構との協定に開く実習参加旅費補助(450,000) ・学科紹介パンフレット他作成補助(200,000)・県内高校生向け体験型授業指導補助学生謝金(10,000) ・教育カリキュラムガイド作成他補助(50,000)・学科紹介ポスターパネル設置補助(52,000) 学部事業補助(1,400,000) ・理工学部保護者懇談会補助(札幌会場含む)(1,000,000) ・「楽しい科学」「サイエンス」への招待「体験補助学生謝金(250,000) ・英語検定受験料補助(150,000)
就職対策支援費	161,000	就職ガイダンス補助、インターンシップ旅費補助
卒業・終了祝賀会費	100,000	理工学部同窓会と共催
印刷費	300,000	会報(140×2,000部)、郵便振替払込票(20×1,000部)
通信・運搬費	140,000	加入案内送料等(140×1,000人)
会議費	30,000	役員交通費等
事務費	180,000	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
備品・消耗品費	50,000	プリンタラベル、コピー用紙等
振替払込料	24,000	会費払込手数料(120×200人)
予備費	345,622	
合 計	4,760,622	

◆特別会計

項目	金額	備 考
繰越金	9,888,975	平成22年度より
雑入	1,200	預金利息
合 計	9,890,175	
支出の部		
学部特別事業支援費	1,382,000	学習相談チューター謝金補助(382,000)、耐震固定器具購入補助(1,000,000)
繰出金	1,000,000	一般会計へ繰り出し
積立金	5,000,000	定期預金
予備費	2,508,175	
合 計	9,890,175	

田眞

編集後記

この冬は久しぶりの大雪で、梅の開花も遅れ気味と聞きました。ただ、梅の実の出来は花の遅い時期の方がよいとのこと。昨年は、大震災を受けた日本だけでなく、世界的にもドタバタして、日常の落ち着きが保てない年だったように思います。来年度は、新研究科長の元、落ち着きのある学生生活を送れるよう、後援会としても支援していけたらと思います。これからも理工学部後援会へのご支援の程よろしくお願い申し上げます。(特別会員理事(教員) 福田眞)